

パーソナルの保護者通信

第5号 数学からは極力逃げない。

保護者の皆様へ。いつも大変お世話になっております。

当塾には小学生、中学生、高校生と幅広い学年の生徒が在席されています。かつて5年ほど前まで私は高校生専門の数学講師でしたが、今となっては本当に幅広い学年に対して指導を行わせていただいています。今では当然小学何年で何を習い、中学何年で何を習い、と小学校～高校にかけての学習カリキュラムを頭に入れていて、これが指導にも役立つもので、ありがたく思っています。

小学生を指導するとき「これは中学に行くともっと深掘りして学ぶことになるよ」だとか、中学生に「これは小学校でやった内容とも重なるよ」だとか、高校生には「これは中学で習ったはずだよ(怒)」だとか。最後のは冗談半分ですが、まあいろいろと話も膨らみます。

“厳密さ第一、第二に分かりやすさ”とは私の指導理念です。もちろん分かりやすい指導をすることは大切ではありますが、厳密さや本質を崩してまで行うべきではない、と考えています。そしてこれは私の勝手な好みが先行した結果ではなく、これまでに多くの生徒を担当してきた経験がこの指導理念を形成しました。これは小、中、高どの生徒に対しても変わりありません。

よく新規入会の方などから「中学までは数学は得意だったけど高校になってからは苦手になってしまった」という学習相談を受けます。この原因は簡単に、

① 勉強習慣はついていないがもともと数的センスがあり、数学だけは“マシ”な結果をどうにか中学までは維持できていた。

② 勉強はしていたが、“数学の基礎”に向き合ってこなかった。

ということがほとんどです。基礎に向き合う、とは何かというと、“その用語の定義をしっかり覚えているのか”、“その定理の主張は何か、その定理はどんなときに使えるのか”とい

う部分をしっかり意識して勉強することです。この意識を生徒にしっかり持ってもらうためにということもあり、厳密さを第一にした指導を大切にしています。

頑張っているはずなのになかなか点数が上がらない、という生徒のほとんどは“用語の定義を知らない、または覚えていない”状態にあります。数学が苦手と言う生徒がそういった用語の定義を覚えることをおぼなりにしているということはよくある話です。例えば“関数の問題”が得意でないという中学生徒に対して「関数とは何か？」を問うと、そのほとんどは正確に回答することができません。小学生なら“円周率って何？”とか、高校生なら“三角関数の定義はどんなものがあつた？”とか。数学力とは別の部分でつまづいていることが多すぎるのです。そうやって問題が解けずにいることを「自分は数学が苦手だ」と分析してしまうのはあまりに勿体ないことです。

人によっては国数英理社の中でも最も学習時間を要する科目が数学です。そもそも正しい勉強法が分からないという生徒も多く、そう簡単に成績は上がってくれません。当塾では、中学までは数学が“目も当てられない”状況だったにもかかわらず、高校生となって半年足らずの全国模試で学年平均を上回る結果を得た生徒(東高)、同じく中学時代に数学は最大の苦手科目だったが今は得点源となっている生徒(宇女)、中学まで数的センスで県内トップレベルの成績を収めていた生徒が数学の理論をしっかりと学び、更に爆発的に能力を上げた生徒(宇高)、算数がもともと得意だったが更に能力を伸ばそうと数学の受講を始めて、学年1位を達成している生徒(横川中)、等々がいらっしゃいます。

栃木県立入試において、数学は平均点がおおよそ30点台でほか4科目よりも低く、数学の出来、不出来は県立入試で合否を分けることが多くあります。大学入試であっても数学は合否を分ける要因になりがちです。手のかかる科目でありつつ極めて重要な科目である数学からは極力逃げず頑張りたいところです。そしてお子様の、伸び悩む様子があれば是非ご相談ください。

今週もご覧いただきありがとうございました。

種市 匠